第　１２号
令和７年６月

生活支援コーディネーターの通信誌

つながろう！

安房「サロン如竹」6月の作品
公民館入り口に飾っています！

今年は例年より3週間も早い梅雨入りとなりました。蒸し暑い気候にうんざりです。でもそんな中、キレイに咲いている紫陽花や玄関に雨宿りに来ていたアマガエルを見ると、楽しい明るい気持ちになれます。ちょっと視点を変えて、雨ならではの楽しみを探してみるのもオススメですよ♪（神﨑）

◎松峯の取り組み【買い物ツアー】のご紹介◎

毎年健康長寿課で実施している『協議体』。令和6年度は松峯区と宮之浦区にご参加頂いたのですが、今回は松峯区が取り組んだ【買い物支援】についてご紹介致します。

昨年度の協議体は例年とは少し違い、県社協の「シニア人材育成実践研修」と同時進行で行いました。地域の強みや資源・課題等を洗い出すところから話し合いをスタートし、地域が今後どのようになってほしいかといったビジョンを設定し、具体的に取り組んでいきました。

協議体とは？
高齢者が安心して暮らし続けることができるよう、地域で支え合いを広げ、より良い地域づくりをしていくための話し合いの場です。地域課題を共有し、解決策を検討する場として活用されます。

地域課題について話し合っていく中で「県道までが遠く買い物が大変で困っている」という声が多く上がり、屋久島町社会福祉協議会のデイサービス送迎車の空き時間を活用した買い物支援に取り組んでいけないだろうかと協議を進めていきました。「利用料・ガソリン代は？」「運転手や付き添いは誰がする？」「保険・車の手続きは？」等々、出てきた意見を一つ一つ話し合い、最初の一歩として 10 月に『お試し買い物ツアー』を実施しました。利用者からは「楽しかった！助かった。」という喜びの声があがり、その後も月１回、５月までに計7回の買い物ツアーを実施しています。買い物ツアーの日を心待ちにし、交流を楽しむ利用者の姿と、それを暖かく見守るボランティアの姿が見られました。

地域の困りごとから始まり、「何か地域でできることはないか？」という思いが、社会福祉協議会の「外出・移動支援車両貸出事業」へとつながっていきました。貸出対象者は地域福祉のために車両を必要とする自治会、高齢者サロン団体等としています。

松峯区の今後の目標は買い物ツアーを継続していくこと。区民への周知を行い、ボランティア（運転手・付き添い）を増やしていくことが課題です。支え合いによって地域が結びつき支え合いの輪が広がり、高齢になっても安心して住み続けられる地域になっていくことを願っています。

※車両貸出の詳細につきましては、屋久島町社会福祉協議会へお問い合わせください。

◎湯泊のサロン「茶にせんかい」の10周年記念のお祝いイベントがありました◎

湯泊のサロン「茶にせんかい」がサロン活動10周年を迎え、そのお祝いイベントが４月27日に行われました。お天気にも恵まれ、いつも活動している“おつのこ館”の前で、湯泊の子ども達が神輿担ぎや手踊りの披露をしたり、集落の方が採ってきたタケノコを販売したり‥区の役員を始め、子ども会や老人会、集落総出で元気にお祝いしてくれました。

サロンの名前「茶にせんかい」は、「お茶でも飲んだら～」という意味合いの言葉。昔は自分たちでお茶の葉を採って炒って飲んでいたのだとか。せっかくなので今回、サロンの名前にちなんでお茶を作ろう！と、子ども達も一緒に新芽を摘んできて、一緒にお茶の葉を炒りました。お馴染みの“かからん団子”も美味しく作って頂きました。

サロンが10年も続く秘訣は‥？ボランティアさん達が無理なく続けられるようお互い支え合い、何より自分達自身が楽しんでいることだと言われていました。そんな風に楽しんで活動してくださるボランティアさん達だからこそ、参加者の皆さんも楽しく通い続けられるのではないかと思います。これからも集落全体で応援していってもらいたいと思います！

◎楠川のサロン『楠川みんなの家』が開催300回◎

「楠川みんなの家」にとって今年は節目の年。平成28年に活動を開始してから、ちょうど300回開催となったのが今年３月。300回記念の際は、ランチを予約してみんなで食事会を楽しまれたようです。「参加者が楽しいかどうか、また来たいと思ってくれるかどうかが一番！」そう語るのは、活動開始から現在に至るまでボランティアスタッフとして「楠川みんなの家」を見守ってきた鞆和美さん。

ボランティアスタッフは利用者に楽しいと思ってもらうことが最も重要であり、「やったことのないこと、食べたことのないものを参加者に体験してほしい」という想いがあり、普段からテレビやインターネットの情報等にアンテナを張っているのだそう。これまで、多数のゲーム・体操に加えて季節の行事について深堀した情報コーナーや、地域行事の様子を映した動画視聴、屋外では花見やウミガメ館見学等さまざまな活動を実施してきました。

話を伺っていて印象的だったのは、サロンの様子を楽しそうに話す鞆さんの姿。もともとは、参加者に楽しんでほしいという気持ちが原動力だったかもしれませんが、ボランティアスタッフ自身も一緒に楽しめる活動を重ねていくことがサロンを続けてこられた要因の一つなのかもしれません。10 年目も更にパワーアップしそうな予感です！

お問合せ先☆生活支援コーディネーター
岩川・菊浦（屋久島町社会福祉協議会 42-2711、47-3232）
神﨑（健康長寿課　地域支援係　43-5900）